

令和5年度 長野県総合教育センター評議員会 次第

1 期 日 令和5年9月26日(火) 参集とZoom配信併用のハイブリット会議

2 日 程

- (1) 研修講座・生徒実習の紹介(動画)
- (2) 評議員会

開 会

① 座長選出

② 説明・報告

ア 令和5年度長野県総合教育センター 組織・機構 事業の重点

イ 研修事業

- ・長野県教員育成指標に基づいた研修
- ・令和4年度～令和5年度 研修講座実施状況
- ・令和5年度研修講座の概要
- ・研修講座のふりかえり(受講者アンケート)集計結果
- ・「教職員研修会サポート」の概要
- ・指定研修の概要
- ・先端技術研修の概要

ウ 生徒実習事業

- ・生徒実習事業

エ 調査研究事業

- ・調査研究事業の概要

オ 教育情報事業

- ・ホームページのコンテンツ
- ・長野県視聴覚ライブラリー

カ 教育相談事業

- ・教育相談の概要

③ 評 議

- ・長野県総合教育センターの事業について
- ・長野県総合教育センターに期待すること
- ・その他

閉 会

3 出席評議員(敬称略)

鳥谷越 浩子	長野県高等学校校長会 副会長
(座長) 井坪 秀明	長野県国公立幼稚園長会 会長
山田 直幸	長野県PTA連合会 副会長
中川 雅能	長野県高等学校PTA連合会 副会長
近藤 守	長野県市町村教育委員会連絡協議会 会長
青柳 信雄	塩尻市中央公民館 館長
奥原 しげ子	塩尻商工会議所 女性会 会長
香山 瑞恵	信州大学工学部電子情報システム工学科教授
滝沢 克子	信濃教育会教育研究所 部長
堀江 三定	長野県産業教育振興会 会長
伊藤 かおる	株式会社コミュニケーションズ・アイ 代表取締役社長
矢野口 仁	松本大学教育学部教職センター 講師

令和5年度 長野県総合教育センター評議員会 評議要旨

【令和5年9月26日（火）実施】

次のような点について、ご質問やご意見をいただきました。
今後の事業運営および研修講座づくりに反映させて参ります。

【質問】

○総合教育センターの利用促進や先生方の多様な活用につながるものとして、「履歴」が非常に重要になってきているが、長野県では先生方の研修履歴がどのように管理され、活用されているか。また、各学校において管理職の先生方とどう共有されているか。

➡（回答）

県で定められた様式のシートをもとに、年度初めと年度終わりに管理職との懇談の中で受講奨励として活用されている。そうした機会をとらえて、学校のマネジメントとして、学校の中での学びが深まっていくように、センター受講者を通して研修の良さが学校に浸透していけばよいと考えている。

○教科横断的な研修の一環として、「STEAM教育」のような次世代の人材育成にかかわる研修は実施しているのか。また、それにかかわる教科横断的な学び（研修）は今後推進されていくのか。

➡（回答）

各教科領域の講座の中で、教科横断的な意識をもって進めようとはしているが、まだそこまで踏み込めてはいない。領域を超えた連携が必要だという認識はあるので、今後研究していきたい。

○「情報科科目」について、「研修」という枠でこの「情報科」を見たとき、教科教育ではなく、産業教育の中に位置づいているが、今後の見通しがあれば教えていただきたい。

➡（回答）

「情報科」については、ご指摘のように昔の枠組みの中で構築しているところがあるので、そこを検討していく必要がある。今後、少しずつ教科教育部と情報・産業教育部が連携して講座を構想できる体制を整えていきたい。

【意見】

【研修講座の講座内容にかかわって】

- ・「対話」を大事にしながら、自身の実践の省察と、それを再構成していくために工夫した研修講座を運営されていてありがたい。大事な視点である。
- ・研修の中には、「目的」と「手段」に齟齬が見られるものもあるのではないかと。対話やワークショップも大事だが、それありきではなく、目的達成のために何が必要かという視点で運営につなげてほしい。
- ・「教育実習」にかかわる講座を作っていただいて、先生方に安心して実習を受け入れてもらえるような体制を整備していただけるとありがたい。
- ・特別支援学校が担うセンター的役割の中で、コーディネーターの先生方、あるいは専任の先生の育成が全国的に求められている。今後も「対人関係能力」としての資質能力向上に向けた研修を充実させてほしい。
- ・現状の教育課題として、「探究的な学び」「個別最適な学び」「自由進度の学び」など、話題になっているが、実はよくわからないという講座があれば、研究主任や教務主任等による積極的な受講から、教職員研修会サポートを通して学校に広がっていく機会になるのではないかと。

- ・デジタルに関係する能力というのは、高校で社会に出る方においても非常に重要で、若者に求められている能力でもある。長野県の特徴を考えたときに、製造業に就く割合が多いが、若者に求められる新たな能力として、「データサイエンス」とか、「情報」というところは社会からも期待されているので、大学に行く人だけでなく、社会にでる人も含めて、その子たちを送り出す先生方向けの研修を是非充実させてほしい。

【キャリア教育 人材育成にかかわって】

- ・一人一人が長野県内でどう生きて働いていくのかということイメージする上でもキャリアというものをどのように生徒さんが学びや未来とを結びつけていくのかということについて、先生方にノウハウをきちんと共有していくことが大切。先生方に長野県という地域や産業、企業への理解をさらに具体的に深めていただき、キャリア教育を1本の柱として広げ深めていただく必要があるのではないかと考えている。
- ・キャリア形成のためのアプローチのプログラムをさらに充実させていただき、地域や企業、大学や学会等との結びつきをより深くできるよう工夫し、生徒の未来に向かってのアプローチのノウハウについてもセンターで一層研究を進めてほしい。
- ・子ども達の将来を考えたときに、人材を地域や長野県にどうフィードバックしていくのか、またどうキャリアアップさせていくのかが大きな課題。先生方に長野県にこんな企業があるのだということを知ってもらうことにも大きな意味がある。そういう教育や情報をとりいれていただくためにも、未来フェアも含めて、もう少しいろいろな事業を増やしてほしい。

【センター事業の広報 PRにかかわって】

- ・せっかくこれだけ充実した研修を計画されているので、年に1回の冊子の配付だけではなく、例えば、プッシュ型の広報として、センターから各学校や各先生方に「こういうところで悩みを感じている先生は是非ご参加ください」のようなアナウンスを随時行うなど工夫し、課題を感じている先生方に届くようにしていただきたい。
- ・魅力的な研修ということで、タイトルにも惹かれるものがあれば受講される先生も増えると思う。具体的な内容で分かりやすいタイトルであったり、実際に現場で困っていることに触れた説明があったり、「初めての〇〇」のように「初めて」に対応していただけるような内容が分かりやすく伝わるようにしていただきたい。
- ・教員生活を送るにあたり、自分のキャリアを高めていけるような仕組みがセンターにあるということをもっと少し宣伝していただきたい。教員不足の解消に向けて、総合教育センターで行っている事業の詳細をもっと全県に広めてほしい。

【その他】

- ・センター研修において、もっとこういう内容をやってもらいたい、こんな研修があったらうれしいなどの意見がふりかえりの中でも出てきていると思う。そういう意見をもとにセンターの在り方をもう一度考えるということがあっていいのではないかと。評議員会の場が、もっと受講者の様々な姿を通して交流されるよう、見える化していけるとよい。
- ・視聴覚にかかわって情報科時代になってきたことも含め、視聴覚ライブラリー（視聴覚教材の管理や購入について）の必要性についても、もう一度検討してほしい。大事なコンテンツを集めてもらってはいるが、これをどううまく活用していくのかということも含めて検討してほしい。